

# でとうございます



## 賀正

「『平成の、その先の時代のまちづくり』

に力を合わせて」

積丹町長 松井秀紀

明けましておめでとうございます。

平成から元号が変わる新しい年を町民の皆さんとともに元気で迎えることができました。

昭和と平成の時代をそれぞれ30年、私たちの郷土「積丹町」は、時の様々な町の課題を町民一人ひとりが、町民の融和“を大切に乗り越える努力を惜しまない、そんなまちづくりの歴史を北海道150年の道のりとともに歩んできました。

そして、自己決定・自己責任という地方分権時代の今日の自治体運営の重要性に、いつも真剣に耳を傾け、叱咤と激励の声を寄せていただいてまいりました。

そうした町民の皆さんの深いご理解とご協力、温かいご支援に心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年は、予測しがたい各地の自然災害の教訓から、私たちの日々の暮らしの知恵と備えや、河道拡幅が急がれる美国川改修事業の大切さを学びました。また、神威岬灯台の観光資源化の新たな動きや、郷土の伝統の祭り、様々なまちづくり活動などのひたむきな努力が高く評価され、新聞・テレビで全国に積丹町が紹介されました。

これらは、高速道路余市インターの開通と併せて、積丹半島先端の地が新たな脚光を浴び、国内外からの力強い応援に繋がるものと期待されています。

新しく迎えた2019年は、政府の「平成の、その先

の時代の新たな国創り」をめざす、国土強靱化、消費税引上げ、幼児教育・保育の無償化などの改革に、国と地方が一丸となって取り組むため、地方にも新たな負担と協力を求めるとしており、小規模な自治体にとって、難しい財政規律の徹底が求められることが予想されます。

また、ここ数年で道内市町村の地方交付税が大幅に減少した結果、その財源を経常的経費に多くを充てざるを得なくなり、身近な地域課題への使途の自由度を失う厳しい苦境に立たされています。

わが町にとりましても、町の「三つの課題の克服と両立」を基本に、防災対策や高齢者、子育て、地方創生、温泉特別会計の改善対策など数多くの懸案課題の一つひとつの克服と解決に、自治力、財政力、行政力を養い、町をあげて取り組んでいかなければなりません。

私は、町民の皆さんのご理解とご協力をいただき、国や道、民間機関や多くの道内外の積丹ファンの方々との信頼関係を大切にしながら、議員の皆さんと英知を結集し、そして町民の皆さんの融和と郷土愛の精神を大切に、「故郷・積丹のまちづくり」に弛まぬ努力を続けてまいりたいと思います。

『新たな元号の年、2019年』の希望に輝く新春を迎えて、町民の皆さんのご多幸とご健勝を心から祈念し、念頭のご挨拶といたします。



# 2019年 新年おめでとう



## 迎春

「魅力あふれるまちづくりを目指して」

積丹町議会議長 山本俊三

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春を晴れやかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

年頭にあたり、積丹町議会を代表しまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さまには日頃から町議会に対し、深いご理解とご協力を賜りまして、心からお礼を申し上げます。

振り返りますと、昨年も全国的に天候不順や自然災害が多発した一年となりました。特に、9月に道内で初めて最大震度7を観測した北海道胆振東部地震では、広範囲での激甚な山腹崩壊や全道規模での長時間停電に見舞われるなど、地域住民の生活に甚大な影響を与えました。

また、北海道命名150年の記念すべき年に、点灯130年の節目を迎えた神威岬灯台が、6月開催の観光立国推進閣僚会議において観光振興に資する重点施設・インフラとして登録決定されたほか、北後志地域と札幌高速道を結ぶ後志自動車道が12月に供用開始さ

れるなど、今後の地方経済の活性化や救急医療体制の拡充に大いに期待を寄せているところです。

さて、本町に目を向けますと、依然として少子高齢化や若年層の流出などから過疎化が続いており、顕著な人口減少は、町勢発展を図るうえで大きな懸案課題となっております。これを克服するためには、幅広い世代において十分な魅力を備えた、活力あふれる地域社会の創生が何よりも肝要であると思えます。

元号が改まる新年を契機に、町議会といたしましても心を新たに町民に寄り添い、身近で信頼いただける議会運営はもとより、町民の皆さまがわが町を誇りとし、わが町に住み続ける喜びを実感できる「魅力あふれるまちづくり」の実現を目指して、弛まぬ努力を続けてまいります。

これからも積丹町議会に対しまして、力強いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。